

三、政治闘争への積極的進出 我國に於ける労働階級の政治的進出は、全無産大衆の政治的共同戦線結成の氣運に即して行はれた。この進出過程に於て、従来政黨的職分を併行し來つた労働組合がその主動的地位に立つたことは當然であるが、この過程は同時に労働組合の政黨的職分からの脱脚の過程としての歴史の意義を持つた。然るに、この分化過程に於て、極左翼の組合は労働組合の經濟闘争に於ける職分を否認し、全面的經濟闘争の名の下に一切の經濟的部分闘争を犠牲として顧みなかつた。かくて樹左翼の政治的進出は一時目覚しきものがあつたが、その大衆的基礎たる労働組合の崩壊と共に、その政治闘争は徒らに觀念的發展を遂げるに過ぎなかつた。また左翼の政治的進出を見るに、大衆の政治闘争への生長を阻止、労働組合に對しては單に政黨的職分からの脱脚を強要して、労働階級の當面する經濟闘争たる政治闘争への場合を無視してゐる。その進出は選舉闘争への労働者の参加、大衆政黨に對する形式的支持の限度を出でない。

四、指導精神の確立 従来極左翼と右翼の對立の代表的なるものは指導精神の對立であつた。だが彼等の指導精神は、現下の日本資本主義の諸情勢の正確なる認識と我國労働組合運動の嚴正なる分析批判の上に立つことなくして、徒らに對立意識を確立することをその歸結とする形式的なるもの過ぎなかつた。かゝる指導精神の形式的確立は、外面的に陣容の統一を示す如くであるが、實は大衆の生長性を無視し、従つてそこには斷さざる大衆の遊離と分裂が繰り返へされることとなる。我等は指導精神の確立を過少評價するものではないが、現下の諸情勢に於ては、一面大衆の生長性に即し且つ一切の分裂的傾向の排除を主眼とする階級的大衆的基礎に於ける指導精神の確立のみが、かゝる形式的確立を克服するものたるを有する。

六、全國労働組合同盟の地位と使命

「合同」の意義及び現段階に即する大衆的闘争組織に就いて

世界資本主義の戦後第三期に於ける新しき矛盾の擴大激化と之に伴ふ我國労働大衆の急速なる闘争への進出の傾向に即し、更に我國労働組合運動の飛躍的發展を前にして我等の全國労働組合同盟は結成された。我等の同盟體はかかる運動の諸情勢を要求する歴史的使命を遂行するために必要なる闘争力の集中とその根柢とするものである。この「合同」の持つ附随的意義は全國労働組合同盟の將來への發展の基準をなすものである。

由來我國に於ける労働組合職線統一の運動は資本の攻勢の急速なる増大と共に、屢々實踐的試みを重ねたが何れも何等の効果を収めずして終つた。之が原因は消極的には指導精神の對立に依りて分散状態が合理化されたこと、及び、積極的には大衆の急速なる生長にも拘らず當然一職線の要望と壓力が實際的たり得ないことに求められるが、更に技術的には單なるかけ聲に提はれて現實的效果に對する見透しのないことによる。従来、指導精神の對立の其中に於て屢々合同提唱がなされたが、また、現存する各労働組合の傳統と組織には何等の顧慮をも拂はずして、全合同が提唱せられたる如き、單なる形式的提携以上に出でない合同提唱がなされたが、其だしきは幾多の全國的同盟體、地方的組合及び産業別合同の混然として合する労働組合會議が直ちに合同運動の主體となり得るが如き理想に提はれたる如き、何れもこの類であつた。

我等は今後に展開されるべき労働組合職線の統一の基準は、名實相伴ふ全國的産業別組合の確立と之を基礎とする強力なる全國的同盟體の結成に置かなければならぬ。だが現下の我が労働組合運動は尚強力なる全國的産業別組合の確立を見ないで、地方的組合乃至は全國的の同盟體の媒介を必要とする。然るに一面我が労働組合運動はかかる労働組合職線の統一の傾向と同時に政治職線に進出すべき便宜を課せられ、且つ資本の攻勢の激化に伴ひ巨大なる未組織大衆の闘争への進出を控へてゐる關係上、中央集権的なる地方的組合乃至は全國的の同盟體はそれ自體に於て重要な闘争の使命を負ふに至つてゐる。現下の状態に於てはこれらの有効なる闘争なくしては、大衆獲得と従つてその産業別編成は不可能の状態にある。

かゝる情勢は、従來の合同運動の技術的缺陷の批判と共に、我等に、全國的の同盟及び地方的組合の可能なる合同による闘争力の擴大強化によりて同盟自體の大衆獲得と之が産業別編成への影響力を大

ならしめ、以て全國的産業別組合の確立と之を基礎とする全國的の同盟體への發展を促進することを現下の緊要事として認識せしめるものである。

二、現段階に即する大衆的組織に就いて

従つて我等の「全國労働組合同盟」はその組織並に闘争の形態を以て本格的なものとなせず、過渡期にある我國労働組合運動内に於て、一定の限界と基準の上に立つ大衆的闘争組織なりとして規定するものなり。

一、現下の我國労働階級の状態は我が同盟に對して、労働階級の端初的闘争の組織者としての機能

を要求する。

二、従つてその闘争は客觀的には經濟闘争であり、亦之を政治的轉化たる組合主義的政治闘争の範圍を出で得ない。

三、その組織は大衆の日常經濟利害の一致を出発點とする大衆的組織であり、労働組合發生期に於ける一切の労働者の團體、地方的産業別組合、全國的産業別組合、職業別組合、地方的組合等を包含する。だがこの組織方法は常に全國的産業別組合の確立を以て一貫する。

四、現下の資本主義の情勢の推移は必然的に労働大衆の急速なる階級的生長を促す。故に、大衆的闘争の組織たる我同盟は常にこの大衆の階級的生長に即して發展する彈力性を具備するを要する。

五、現下の政治的状態は労働階級の政治闘争への積極的進出を不可避的に要求する。我同盟の政治闘争は必然的に組合主義的政治闘争であるが、支持政黨との協力によりその政治意識の昇揚を試みられなければならない。

六、我同盟は大衆的組織なるが故に全労働大衆に對して開放的であらねばならない。組合員の思想の右たると左たるとは我同盟の問題とはならない。だが民主的中央集権の原則に反し、一切の提議行為を分裂政策に對してはこの傾向の右たると左たるとを問はず常に排除を意してはならない。

七、單に労働大衆の經濟的闘争のみならず、貧農、小市民、殖民地プロレタリアの反搾運動の現實的提携は不斷に試みられなければならない。

七、我等の當面の諸運動とその方針

我が同盟の上述の基準は、我等の當面の諸運動に對して、一定の具體的方針を明瞭にする。之を之を具體的規定に更に詳細なるテーゼを必要とする。茲にはそのテーゼの大部分をここに記す。

一、組織運動方針

現下の我同盟の主要なる一つは、巨大なる未組織大衆の組織と訓練である。かゝる外部への働きかけに際して、我同盟自體の組織の完備と統制の確立は必須條件である。

1、内部的統制の確立

我同盟の組織は全國的産業別組合主義の上に立つ民主的中央集権制と大綱とする。従つてその構成單位は全國的産業別組合たることを理想とするが、今日に於ては尚かゝる状態に達せず、せいゝく二つの全國的産業別組合を有するに過ぎず、餘餘の組合は地方的産業別組合、職業別組合及び地方的組合の状態にある。かゝる地方に於ける組合及び産業別組合の支部の聯絡の機關は府縣聯合會及び地方上の一地方を單位とする地方聯合會である。我同盟は縱に産業別組合の統制により、横に地方聯合會の連絡により、中央集権の實を擧げんとする。だが組合の活動の根本單位は加盟組合に在り、地方聯合會は地域の共通問題に關する統制の権限を附與されるものである。

2、分派運動に對する統制

現下の状態は稍もすれば労働組合内部に分派運動を派生せしめる。かゝる傾向は従來の宗派主義的影響の殘存し、且つ、大衆の間に幾多思想的系統の交錯する今日に於ては尙避け難き事情による。我同盟は大衆の日常利害を中心とする組織たる本則により、個人の思想的自由には干渉しないが、之が發展して分派的運動を生み、遂に民主的中央集権の原則を犯す傾向ある場合には、統制委員會の活動を促して統制の實を擧げること努めるであらう。

3、未組織大衆の獲得

現下の未組織大衆獲得の戦術は三つの重點に集中せられねばならない。